

## 山雲水月 (特別号)

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道



## ↑ 龍源寺山門

### 平成14年 龍源寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱  
1/3～1/4 年始挨拶  
2/3 ※節分会  
2/15 ※涅槃会  
3/18～3/24 春彼岸  
3/23 蚕影山例祭  
4/8 ※花祭り  
4月末 施食会法要  
6/15～6/16 三十世晋山結制式  
7/12～7/16 県外檀信徒棚経  
7/23～7/24 ※子供禪の集い  
8/13～8/16 お盆  
9/20～9/26 秋彼岸  
12/8 ※成道会  
12/31 除夜会

※は本寺・仁叟寺において  
修行予定です。

## 龍源寺の歴史

龍源寺は華應存永<sup>かおうぞんえい</sup>大和尚創建（生没年創建年共に不詳）以来、五代目の

智眼慶察大和尚代に山崩れのため

に堂塔墓地共に埋没した。その後、正保三年

（1646）、当地領主の

門奈六左衛門の寄進により、

仁叟寺九世日洲寿朔大和尚を

請来し、曹洞宗として開山。

明治二十六年（1893）、二

十三世祥雲天瑞大和尚代に火

災にて堂宇が焼失。翌年に檀

信徒の尽力にて再建。埼玉県

陽雲寺より、同寺末寺陽福院

に安置したる仏像を拝迎し、

これを本尊とした。昭和二十

八年（1953）、二十八世

大澄隆司大和尚代（現・仁叟寺東堂）に庫裏・長屋門を修

築。昭和五十年（1975）、二十

八世大顕啓司大和尚代（現・仁叟寺住職）に本堂・庫裏の改修。山門・長屋門などの新築及び墓地の造営などを行った。

境内には養蚕倍盛・家内安全を

祈願する蚕影山大権現、魚介供養

のため池の淵に安置したる

魚藍観世音菩薩立像、道祖神や

庚申塔をはじめとする石仏・石塔

が数多く祀られている。また、二

十六世大義忠久大和尚はじめ太

平洋戦争で亡くなられた英霊の戦

没者供養塔、江戸期に地区の住民

を救った、義民白田六左衛門供養

塔も、多くの人の協力で建立された。

爾来、約三百五十年もの間、歴

代住職そして檀信徒の協力の下、

法燈を絶やすことなく現在に至っ

ている。

# 上毛新聞(6月8日(土)号より)



(第3種郵便物認可)

龍源寺30世住職 渡辺 龍道さん(26) 吉井町多胡

今日一日、父の跡を継ぎ、約三百年の歴史を持つ龍源寺(吉井町多胡)の住職に就任した。「人が集まるような寺にしたいんです」。大学時代の長髪を切り、修行の道に入った新任住職は夢を語る。

きっかけは大学時代。アジアの国々で目にした寺の姿だった。人々が何気なく立ち寄る寺に「これが本当の寺の姿か」と驚きを感じた。

修行終了後、半年ほど働いた新聞社での経験を、生禅会も、週一回開いている同窓会を実現。五十七年ぶりの再会を喜ぶ姿に感動を覚えた。

「今まで伝えられてきた住職の務めはこなし、その上新しいことをやっていきたいんです」。穏やかなひとりの奥に夢と情熱がきらりと光った。

「任命されたからには精いっぱいやりたい」と話す渡辺さん

身近で人が集まる寺に

びーぐる

今月8日(土)の上毛新聞の地域面(西北毛)の「びーぐる」面(人物紹介欄)に、不肖ながら私、住職が掲載されました。まだ実績もなく本当にお恥ずかしい限りですが、記事中にもあるように、「任にあたって他に譲り難し」の精神で頑張っていこうと思っております。



## 行雲流水(編集後記)

編集人 住職 渡辺龍道

蒸し暑くなってきました。当寺の木々もみずみずしい緑の芽が息吹き、見る人に季節と生命を感じさせてくれます。また近くを流れる西谷川では例年通りホタルを観賞することができます。

通常ならば、四部構成の同寺報「山雲水月」ですが、今回は晋山結制式記念特別号外版として、二部構成でお届けいたしました。また、お盆前に通常版第3号を頒布する予定です。その寺報で、今回の晋山結制式の会計報告、並びに特別志納寄付者や物品寄付者の発表を行わせていただきます。宜しくご査収ください。

さて、龍源寺の晋山結制式も無事、終了いたしました。檀信徒の皆様はじめ、ご随喜してくだ

さったご寺院様、親戚や友人など龍源寺に繋がるご縁のある方々、紙面をお借りして、御礼申し上げます。特に本寺・仁叟寺の渡辺啓司住職様とそ

の家族の皆様、安下所を提供していただいた出牛裕一様には物心両面にわたり幫助していただきました。ありがとうございました。

二十九世東堂住職同様、仁叟寺の副住職を兼ねての生活になると思いますが、これからは、住職として日々弁道精進していく所存でございます。改めて宜しくお願い申し上げます。

